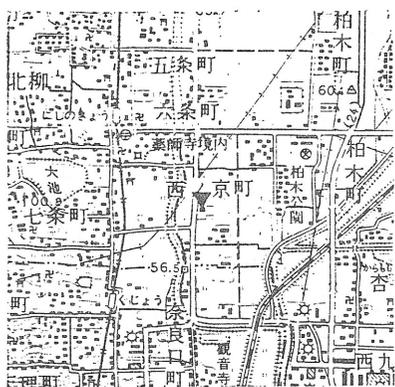


奈良・平城京右京七条一坊十五坪

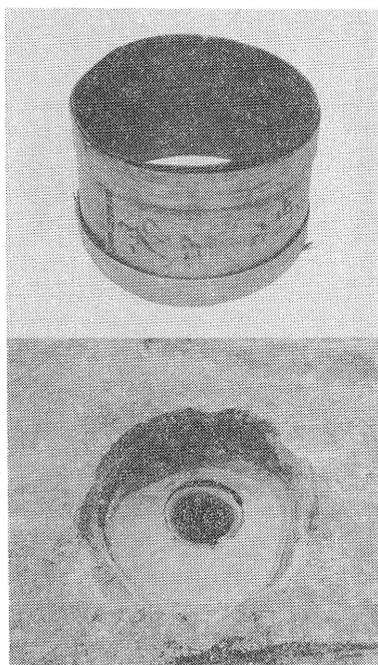
- 1 所在地 奈良市六条町
- 2 調査期間 一九八五年(昭60)九月～一〇月
- 3 発掘機関 奈良市教育委員会
- 4 調査担当者 中井 公・森下恵介
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(奈良・桜井)

当該地は平城京右京七条一坊十五坪の西辺中央部にあたる。西一坊大路及び同東側溝を確認し、坪の内部では奈良時代の掘立柱建物

六棟と井戸一基に加えて、一一世紀後半から一二世紀初頭にかけての井戸三基を検出した。このうち後者の井戸の一基に墨書曲物が使用されていた。井戸の構造は、円形掘形(径一・二m、深さ〇・九五m)の底部に墨書曲物を据え、この上部に



墨書曲物(上)と井戸全景(下)

須恵器甕の口縁部をのせ、その上にいまひとつの曲物を置いている。枠内出土の土器からみて、一二世紀末に廃絶したと推察できる。

8 木簡の積文・内容

(1) 「湯屋□延久参年四月十日」

061

曲物は、厚さ六mmの薄板(檜材)を一巡させた本体(径四四・五cm、高さ三〇・五cm)の両端に箍をはめ込んだもので、底板がはずされている。墨書は、側板本体の外面中央部に施されている。

9 関係文献

奈良市教育委員会「平城京右京七条一坊十五坪の調査」(『奈良市埋蔵文化財調査報告書 昭和六〇年度』一九八六年)

(中井 公)